

令和 4 年度の事業報告書

(令和 4 年 4 月 1 日から令和 5 年 3 月 31 日まで)

1 事業の成果

令和 4 年度事業について、定款の項目に従い成果を総括すると次のとおりである。

(1) 育児サークルや育児支援サークルの支援とネットワーク化事業(定款第 5 条(1))

コロナ禍による活動の制限や新メンバー募集が難しいサークルが多かった。令和 3 年度の支援内容を継続し、会場提供と活動支援をセットし、同時に来園者に対して育児サークルについて周知したところ 12 回で 194 名が参加した。このように丁寧な支援することで、前年度同様 7 サークルが活動を継続することができた。育児サークルを支援する地域支援事業の参加者はのべ 401 名であった。サークル交流研修会は 5 回開催、102 名が参加した。サークル訪問は 1 サークルを 2 回訪問した。平成 27 年から活動する「プレイセンターべにっこ」は通年でのべ 459 名が参加し、親子が中心となって計画し活動することができた(べにっこひろば及びべにっこひろば子育て支援センター管理運営業務、以下べにっこひろばと表記)。

サークル的機能「親同士のつながり」を作る「赤ちゃんと一緒に(BPプログラム、全 4 回)」は、平成 27 年度から子育てランドあ〜べで通年開催し、2〜5 か月児の母子の仲間づくりをしてきた。令和 3 年度はコロナ禍により 10 期計画したものの 5 期開催となったが、令和 4 年度は親子の仲間づくりのニーズが高まったせいか 10 期のうち 9 期開催し 558 名が参加した(子育て支援施設子育てランド運営業務、以下子育てランドあ〜べと表記)。子育てでつながる家いろはでは 4 期計画したが 1 期開催となり、のべ 46 名が参加した(子育てでつながる家いろは(長井市子育て支援センター)運営業務委託、以下いろはと表記)。

育児中の親が共通のテーマのもとに集まるサークルとしてパソコンや SNS 等に興味がある人の ICT サークルを 5 月に立ち上げた。インストラクターの指導のもと、8 回のべ 22 名が参加した。保育士資格取得準備サークルはコロナ禍が落ち着くまで休会とした(子育てランドあ〜べ)。

育児支援サークルの支援では、各拠点とも学生やボランティア団体を感染症流行に配慮しながら受け入れた。べにっこひろばでは、山形大学や県立保健医療大学のボランティアを受け入れる等、地域との連携が再開できのべ 637 名が参加し好評だった。地域では、山形市大曾根コミュニティセンターの乳幼児対象の運動会を支援し 14 名が参加した。

シニア層が子育て支援活動に参画できるよう、山形市でシニア層対象の研修会を開催し、16 名が参加した。さらにボランティア体験の機会を提供し、のべ 9 名が参加した。令和 2 年度、3 年度の講座受講者のうち希望した 31 名に情報提供を行った。シニアボランティアを受け入れている団体を、県内 4 地区から各 1 団体選んでヒアリングしリーフレットを作成した(やまがた他孫(たまご)育て支援事業)。

シングルマザーの子育てサロン「シンシンの会」は、毎月第 3 日曜日に企画し、のべ 54 組 122 名が参加した。ボランティアや学生の活動、子ども食堂関係の寄付、カフェのテイクアウトランチ提供など様々な支援があった。

育児支援のネットワーク活動は、「村山地域みんなで子育て応援団」「置賜地域みんなで子育て応援団」において当法人が会長を務め、地域内のネットワーク活動を継続した(自主事業、地域子育て支援)。

(2) 保育事業(定款第5条(2))

保育事業は、講座・催し物の臨時託児室運営は34件で、前年度の49件を大きく下回った。これまで通り、衛生管理、主催者との調整、保育者の育成など、保護者が安心して子どもを託すことができるように努めた。2年ぶりミーティングを開催し情報共有し話し合いができた。2名がスタッフ研修として実習に取り組んだ(自主事業、保育事業)。

マザーズジョブサポート山形内「保育ルームにこにこ」は、1日平均利用子ども数1.4人と少なかった。感染症対策で子ども連れでの外出や求職活動を控えている状況が続いていると考えられ、引き続き感染症対策を徹底し保育した。

自主事業の会員制の預かり活動「子育てサポート応援団」は会員143名で活動し、山形ファミリー・サポート・センターに集約するよう進めたところ、活動件数は前年度の四分の一程度の56件となった。

山形市のファミリー・サポート・センターを受託は2年目となり、協力会員は82名と横ばい、利用会員471名と前年より11名減少したものの、活動件数は1,226件と前年比171件増となった。山形市が直営で実施していた2年前と比較すると、675件増加しており約45%増と大きく増えた。今後は実際に活動できる会員を増やすよう掘り起こしに努めながら援助活動をコーディネートしていく(山形ファミリー・サポート・センター運営業務)。

平成25年度から受託した山辺・中山ファミリー・サポート・センター事業は、周知広報や両町の利用者への補助金の効果で平成27年度40件から、28年度216件、29年度300件、30年度は244件と推移した。しかし31年度は43件、令和2年度14件と減少し、令和3年度は5件と開設当初のように一桁台となった。令和4年は養成講座の周知などにも力を入れて取り組んだ結果、52件と増加した(山辺・中山ファミリー・サポート・センター事業)。

「子育てランドあ〜べ」の一時預かりは、利用者数が1,526名と令和3年を約1割下回ったものの、新規登録者は319名と2割増加した。コロナ禍ではあったが、カフェの協力を得ておにぎりセットを提供できるようにするなど親子のニーズに応えるよう改善した(子育てランドあ〜べ)。

平成26年度から受託した「山形大学小白川キャンパス保育所」は、のびのび、つぼみの合計で、年度始め22名、年度末30名となった。令和2年度より大学と連携し感染予防を徹底しながら運営したが、子ども、職員ともに感染者が出て3日間休所した。保育参観を継続する他、3年ぶりに親子行事を工夫して行った。第三者評価を受審し専門的、客観的視点から保育内容について高い評価を得た。それとともに、課題を明確にすることができた。これまでの運営状況により令和5年度から3年間の随意契約が決定した。コロナ禍で保育人材の確保が難しいなか、年度途中の欠員を補充することができなかった(山形大学小白川キャンパス保育所運営業務)。

(3) 育児や育児中の生活に関する情報収集と提供事業(定款第5条(3))

紙媒体での広報に加えて、インターネットを活用した広報を拡充した。

法人のホームページについてSSL証明書を導入し、安全性を高めた。会員向けに年2回ニュースレターを作成し、会員等の法人・個人へ送付し、サークルランドの現在の状況を会員の皆さんに知ってもらった。

「子育てランドあ〜べ」では、情報紙「あべあべ!あ〜べ!」(毎月25日発行)を、1,500部発行し、育児サークルや支援センターなど149か所に配布した。LINEを月1回発信しホームページにリンクさせるほか、7月より随時Instagramであ〜べの情報を提供した。

「べにっこひろば」では、べにっこひろばだよりを月1回、200〜500部発行した。広報やまがたは令和3年度に続き掲載はなかった。Webでは、山形市のすくすくネットにイベントを月1回告知し、ブログを月3〜8回更新し情報提供した。民間のサイト「いこーよ」に月1回程度情報を

提供した。

「子育てでつながる家いろは」は毎月のおたより「いろは」を 50 部発行、Face book、LINE の他、Instagram での情報提供を始め、主にイベントのお知らせやひろばの様子などを投稿したところ、DM からの予約や問い合わせが増えてきた。ホームスタートおきたまのビジター向けに、HV(ホームビジター)通信を 2 回発行し郵送した。

マザーズジョブサポート山形、同庄内は、開設したホームページにて情報発信した。

(4) 女性や育児中の方々の人材育成に関する事業(定款第 5 条(4))

人材育成関連では、育児中の親向けの講座、女性の自立に向けての支援活動、地域の子育て支援力の向上のためのボランティア育成研修会、子育て支援の専門的な研修等を継続して行った。

一般向けの研修では、妊娠期からの切れ目ない支援としてママパパ教室をあ〜べの研修室を会場に 7 回開催し、68 名が参加した(山形ファミリー・サポート・センター運営事業)。2〜5 か月児と母親対象の「赤ちゃんと一緒にベビープログラム」(2 時間×4 回)は、あ〜べで 9 期、いろはで 1 期実施した。「子育てランドあ〜べ」での“高校生のパパママ体験”は令和 2、3 年度休止したが、令和 4 年度再開し 2 名を受け入れた。あ〜べのパソコン講座は 4 回企画したが 2 回は参加者が無く、のべ 6 名の受講にとどまった。多様化している学習方法を検討し、NPO 法人育て上げネットと Microsoft 社による e ラーニングへの団体登録など、今後の活動を模索した。

育児サークル交流研修会では、山形市男女共同参画センターファーラと協働し、育児サークル支援を図った(再掲)。

女性の自立支援では、『マザーズジョブサポート山形』(平成 26 年から継続、山形テルサ内)、『マザーズジョブサポート庄内』(平成 29 年から継続、酒田市中町庁舎内)は令和 4 年度も継続し受託した。

利用状況は、山形では 293 日開設、のべ 1,080 名、一日平均 3.7 名、うち相談は 2.4 名と令和 3 年度の約 9 割と回復しなかった。セミナーの定員削減、ハローワークのオンライン化、保育所入所が容易になり保育関係の相談が半減したことなどが原因と考えられる。「保育ルームにここ」利用者はのべ 195 名、一日平均 1.4 名であった。セミナー及び職場見学会は 42 回、のべ 146 名と減少し設定した定員の約半数にとどまった。オンラインでの講座受講は 13 名だった。例年人気があった社労士セミナー、パソコン講座を含めセミナー全般について、利用者が必要としている内容に合わせ見直していきたい。

出張相談は寒河江、村山、長井、米沢の各ハローワーク、子育て支援センターにて 25 回行い、セミナー参加は大人 19 名、見守り保育の子ども 10 名、出張相談時の個別相談は 42 名、見守り保育の子どもは 46 名だった(マザーズジョブサポート山形就労支援及び託児業務)。

マザーズジョブサポート庄内の利用状況は、243 日開設、のべ 709 名、一日平均 2.8 名、うち相談は 2.2 名が利用と令和 3 年度よりやや増加した。「保育ルームきらきら」はのべ 93 名、一日平均 0.6 名と利用者数は回復しなかった。セミナーは山形に準じた内容で、33 回開催のべ 110 名が参加した。うち 12 名がオンラインによる参加だった。出張相談は鶴岡、新庄の各ハローワーク、子育て支援センターにて 20 回行い、セミナー参加は大人 11 名、見守り保育の子ども 8 名だった。出張相談時の個別相談は 58 名、見守りの子どもは 60 名となり、支援センターで多くの親子と関わることができた(マザーズジョブサポート庄内就労支援及び託児業務、特定非営利活動法人にこっとと共同企業体を組織し受託)。

ボランティア育成では、「子育て支援者養成講座」を 2 回開催し各地で子育て支援者の育成を図った(山形市 6〜7 月は山形ファミリー・サポート・センター運営業務、10〜11 月中山町は山辺町・中山町からの委託で、修了者は山形市会場 6 名、中山町会場 5 名の合計 11 名であった。「ホーム

スタートビジター養成講座」は山形市で9～10月開催し4名が修了した。ビジター数は「ホームスタートやまがた」81名、「ホームスタートおきたま」18名となった。

震災関連では、宮城、山形、福島、新潟各県の支援者を対象に、研修交流会を2回対面で開催した。7月は「福島県環境創造センターコミュニティ福島」視察と、山形県1団体、福島県2団体の活動発表、グループごとの交流と情報交換を行い、29名が参加した。12月には「災害時のこどもにやさしい空間(CFS)研修」を開催し、28名が参加した（やまがた・ふくしま子育て支援交流事業）。

家庭的保育者(保育ママ)関連の研修は、23年度から毎年山形市から受託している。令和2年度からは現任研修で、原則オンラインとし救命救急法のみ対面で研修した。参加者はのべ59名だった（山形市家庭的保育者現任研修）。

子育て支援員研修は29年度から受託し、令和3年度に続いて地域支援コース、地域子育て支援拠点の研修を開催した。11月に山形市、三川町の2地域で開催し、23名が修了した(山形県子育て支援員研修事業、地域子育て支援)。

(5) 調査提言事業(定款第5条(5))

令和2年度から継続して3回目のアンケート調査を行った。対象はシニア層のボランティアとして講座受講者116名、受入れ側として子育て支援団体等114か所に調査票を送付し、受講者70名、団体等70か所から回答があった。また、あわせて県内4地区から1団体ずつシニアボランティアを受け入れている団体にヒアリングを行い、結果についてパンフレットを作成した。

アンケート調査では、コロナ禍の課題として親子の孤立が多くあげられていた。ボランティアの受け入れでは、シニア層に対して、子どもや親子との関わりが期待されていた。シニア層がボランティア活動を始めるには、研修や見学、体験が意欲を高め、情報発信やコーディネートが重要であることがわかった（やまがた他孫（たまご）育て支援事業）。

ホームスタートジャパンのシステムQISSに基づき全国での統計にデータを提供した(自主事業ホームスタートやまがた、おきたま)。べにっこひろばでは、来館者対象に随時アンケートを行い、運営に活かした(べにっこひろば)。

(6) 育児支援の様々な事業に対するマネジメント支援及びコンサルティング事業(定款第5条(6))

村山地域の子育てNPOと市町村によるネットワーク「村山地域みんなで子育て応援団」では、会議の書面開催や中央講師によるオンラインの研修を行う他、事前学習会として対面での交流会を行った。

べにっこひろばでは、市内外からの見学、視察の受け入れがコロナ禍前くらいになった。

(7) 子育て支援施設の運営事業(定款第5条(7))

令和4年度は、夏からの感染症第7波、11月頃から2月頃の第8波に対応しながら子育て支援施設の運営を継続した。子育て家庭の状況は厳しく、出産時の支援が少なく子ども連れの外出がしにくい状況は続いていた。しかし、利用者はコロナ禍の中で妊娠・出産を経験した人が多くなり、仕事や経済活動が再開されつつあり、感染状況や周囲の様子をみながら行動していくことが日常化しているようでもあった。

みはらしの丘「ミュージアムパークはらっぱ館」は、指定管理事業者と12年目の委託契約を結び、講座事業や育児サークル「マーブル・チョコレート」などの子育て支援事業を継続して開催した。令和2年度から大きなイベントや食に関する催しは中止しているが、11月から利用制限が一部解除になり講座などの募集定員を増やすことができた。育児サークルは、リーダーを中心に

メンバー同士が協力し合いながら和やかな雰囲気です活動している（蔵王みはらしの丘ミュージアムパークに関わる子育て支援業務）。

「子育てランドあ〜べ」はN-GATEに移転し6年目となった。N-GATEは七日町商店街振興組合の事務所、2階以上が駐車場で中心市街地活性化の一端を担っている。令和元年1月に大沼デパートが閉店、令和2年から新型コロナウイルス感染症の流行と中心市街地活性化には大きな影響があったが、令和4年9月には、旧山形第一小学校旧校舎が「やまがたクリエイティブシティセンターQ1」としてオープンし明るい話題となった。あ〜べはおやこ広場、託児ルームともに消毒、換気などの感染症対策を継続し開館した。令和3年度は一部オンラインの活動があったが、令和4年度はほとんどが対面になった。おやこ広場は、開館日数297日で利用者数は10,222名と令和3年度の2割増となった。各種相談会のはのべ565名の参加で、令和3年度より約百名ほど減少した。身体測定は継続実施、お誕生会・「ハーフバースディ」は密を避けるため個別対応としてきたが11月から月2回開催した。講座は定員を半分の8名にして開催した。ベビープログラム「赤ちゃんと一緒に」（通称BP）は10期計画し9期開催、令和3年度の約2倍となるのべ558名が参加した。ベビーマッサージは2回開催し参加者は34名であった。IT講座は参加者が大きく減少し10回企画していたが3回のみ開催となり、今後の開催内容等全般について見直した。

ICTサークルを5月から立ち上げ月1回活動した。シンシンの会（シングルマザーの交流会）は、令和2年度からカフェと協働しランチのテイクアウトを100円で提供し支援した。保育士資格取得準備サークルは休止した（子育てランドあ〜べ）。

「べにっこひろば」は、令和4年度より10年間の指定管理者としての2期目が始まった。引き続き感染症対策をとりながら運営し、利用制限があったものの状況をみながら活動を再開してきた。屋内来園者数は例年の5分の1であった令和2年度48,539名から、令和3年度71,052名、令和4年度は119,447名に回復した。相談は令和3年度より1割以上少ない540件、内容は生活習慣や発達の心配等であった（べにっこひろば）。

長井市の地域子育て支援センターとして4年目の「子育てでつながる家いろは」は、通年開館156日、利用者数は1,691名と令和3年度より377名減ったが、実人数では13名の減少であった。「助産師さんの日」は7回開催、親子28組63名が参加した。令和2年度には22回196名利用があった予約制のいろはの日は、令和3年度は1回、令和4年度も1回のみだったため、スタッフ発信のイベントやサークル活動を企画し、リズム遊びの「ドレミくらす」「ドレミくらすミニ」は13回101名が参加した。「赤ちゃんと一緒に〜ベビープログラム〜」は1期開催のべ46名、マタニティの日は4回企画したが申し込みはなかった。来館者アンケートを参考にスタッフやボランティアで作戦会議を開き、年度後半様々の工夫を凝らして運営した（いろは）。

(8) 子育てに関するイベント事業(定款第5条(8))

山形県男女共同参画センターチェリアの「チェリアフェスティバル」はワークショップを企画したものの申し込みが無く中止となり、展示のみで参加となった。

「べにっこひろば」では、地域支援に関する業務として様々な団体と連携した恒例のイベントを、感染症の状況をみて再開し好評だった。

「子育てランドあ〜べ」では、七日町のイベント時に開催した夏まつりに223名、秋まつりに254名と多くの参加者があり賑わった。

(9) その他会の目的達成に必要な事業(定款第5条(9))

未就学児のいる子育て家庭への訪問支援「ホームスタート」は山形では自主事業、置賜では地域子育て支援拠点事業の加算事業として長井市委託事業の中で実施した。ホームスタートやまが

たは訪問家庭数 13 件、ホームスタートおきたまは 3 件であった。ホームスタートジャパンの東北・北海道エリア協議会、研修会などにオンラインで参加した。ホームスタートジャパンの推進委員を継続し、情報室、スキームサポート、フاندレイジングに関して活動した。

産前産後の支援は、自主事業の産前産後サポート活動は利用がなく、山形市の委託事業の産後ケア事業のみであった。感染症流行で里帰り出産ができなくなった人への支援として無料で利用できる「山形市育児等支援サービス事業」は、令和 3 年度 92 回活動したが、令和 4 年度は 16 回のみとなり令和 3 年度末で終了することとなった。利用期間が 1 歳未満に延長された山形市産後ケア事業業務(ママサポーター)はのべ 105 回活動した。(自主事業妊産婦等の産前産後サポート支援、山形市育児等支援サービス事業、山形市産後ケア事業業務)。

東日本大震災後約 12 年が経過し、避難家庭支援の活動を縮小しながらも継続した。米沢市では「スペシャルママカフェおしゃべり会」「ママカフェ同窓会」の 2 回開催し 27 名参加、山形市では、夏祭り(べにっこひろば)、山寺遠足、Pont tree café でのサロンを合計 4 回開催し 24 名が参加した(被災児童の交流会等実施事業)。

山形・福島・新潟・宮城各県の支援者がともに交流研修する事業は平成 25 年より継続実施し 10 年目となった。2 年ぶりの対面開催となり、福島県三春町の「福島県環境創造センターコミュニティ福島」を会場に視察、交流会を行い 29 名が参加し好評だった。2 回目の研修会は山形市内で「災害時のこどもにやさしい空間(CFS)研修」で 28 名が参加しワークショップを含む研修を行った(やまがたふくしま子育て支援交流事業)。

「子ども食堂」の活動では、寄附金などを活用し、Pont tree café でシンシンの会の開催に合わせ、ひとり親家庭の食事支援として 1 食 100 円のテイクアウトを行った(自主事業)。

2 事業の実施に関する事項

事業名 (定款に記載した事業)	具体的な事業内容	(A) 当該事業の実施日時 (B) 当該事業の実施場所 (C) 従事者の人数	(D) 受益対象者の範囲 (E) 人数	事業費の 金額 (単位:千円)
(1) 育児サークルや育児支援サークルの支援とネットワーク化事業				
育児サークル支援	・相談及び遊具貸し出し ・交流会、研修会の開催 ・活動場所や情報の提供	(A) R4. 4. 1～R5. 3. 31 (B) べにっこひろばほか (C) 5 人	(D) 一般市民 (E) 交流研修会 102 人 活動場所支援 270 人	
(2) 保育事業				
保育事業	・臨時託児室の設置による一時保育	(A) R4. 4. 1～R5. 3. 31 (B) やまがた育児サークルランドほか (C) 1 人	(D) 一般市民 (E) 34 件、託児数 93 人	2,526
山形大学小白川キャンパス保育所運営業務	・山形大学の教職員や在籍学生、山形銀行職員及び地域家庭の子どもの保育 2 歳児まで＝「つぼみ」 就学前まで＝「のびのび」	(A) R4. 4. 1～R5. 3. 31 (B) 山形大学小白川キャンパス (C) 20 人	(D) 関係者及び一般市民 (E) 保育 30 人、一時預かり 8 人	34,256
子育てサポート応援団	・育児の援助を受けたいものと研修を受けた育児援助者の組織化 ・研修及び相互援助活動支援	(A) R4. 4. 1～R5. 3. 31 (B) やまがた育児サークルランド (C) 2 人	(D) 一般市民 (E) 登録会員 143 人 会員活動 56 件	
(3) 育児や育児中の生活に関する情報収集と提供事業				
ひとり親家庭情報交換事業	・相談及び交流会の開催 ・100 円ランチの提供 ・寄贈品の提供	(A) R4. 4. 1～R5. 3. 31 (B) 子育てランドあ～べほか (C) 2 人	(D) ひとり親家庭 (E) 122 人	191

(4) 女性や育児中の方々の人材育成に関する事業				
「村山地域みんなで子育て応援団」 育休復帰応援講座 実施業務	・育休復帰後の仕事と家庭の両立 などを考える機会の提供、同じ境 遇の母親のつながりによる不安 払拭と意欲の醸成のためのセミ ナー開催	(A) R4. 8. 4～R5. 3. 15 (B) 子育てランド あ～べほか (C) 1 人	(D) 一般市民 (E) 講座 2 回 参加者 4 人	36
(5) 調査・提言事業				
(6) 育児支援の様々な事業に対するマネジメント支援及びコンサルティング事業				
山形ファミリーサ ポートセンター運 營業務	・事業の周知と啓発 ・会員の募集と登録 ・会員の統括及び相互援助の調整 ・会員に対する講習会及び会 員の交流会の実施	(A) R4. 4. 1～R5. 3. 31 (B) やまがた育児サー クルランド (C) 3 人	(D) 山形市民 (E) 登録会員 562 人 会員活動 1, 226 件	4, 703
山辺町・中山町フ ァミリーサポート センター運營業務	・事業の周知と啓発 ・会員の募集と登録 ・会員の統括及び相互援助の調整 ・会員に対する講習会及び会 員の交流会の実施	(A) R4. 4. 1～R5. 3. 31 (B) やまがた育児サー クルランドほか (C) 2 人	(D) 当該町民 (E) 登録会員 171 人 会員活動 52 件	2, 530
山形県子育て支援 員研修事業（地域 子育て支援）	・地域子育て支援拠点事業の 専任職員として従事するた めに必要な知識や技能を習 得するための研修会開催	(A) R4. 6. 17～R5. 3. 31 (B) 山形市総合福祉セン ターほか (C) 1 人	(D) 一般市民 (E) 講座 2 回 参加者 29 人	488
家庭的保育事業現 認研修業務	・家庭的保育者の資質向上の ため必要な知識や技術の習 得のための研修会開催	(A) R4. 10. 1～R4. 12. 28 (B) 子育てランド あ～べほか (C) 3 人	(D) 子育て支援分 野に従事する者 (E) 59 人	278
(7) 子育て支援施設の運営事業				
子育て支援施設子 育てランド運營業 務	・親子交流事業 ・一時預かり ・人材育成、相談事業ほか	(A) R4. 4. 1～R5. 3. 31 (B) 子育てランド あ～べ (C) 26 人	(D) 一般市民 (E) 20, 045 人	41, 701
山形市児童遊戯施 設「べにっこひろ ば」等指定管理業 務	・遊びの場やあそびの提供 ・子育て支援 ・相談対応ほか	(A) R4. 4. 1～R5. 3. 31 (B) べにっこひろば (C) 39 人	(D) 一般市民 (E) 119, 447 人	76, 680
子育てでつながる 家いろは（長井市 子育て支援センタ ー）運營業務	・親子が交流できる場の提供 ・相談事業 ・家庭訪問相談事業ほか	(A) R4. 4. 1～R5. 3. 31 (B) 子育てでつながる 家いろは (C) 3 人	(D) 一般市民 (E) 1, 314 人	4, 875
蔵王みはらしの丘 ミュージアムパー クに関わる子育て 支援業務	・講座イベント開催 ・育児サークル活動支援 ・交流の場の提供 ・情報提供ほか	(A) R4. 4. 1～R5. 3. 31 (B) 蔵王みはらしの丘 ミュージアムパーク (C) 1 人	(D) 一般市民 (E) 266 人	2, 386
(8) 子育てに関するイベント事業				
やまがた・ふくし ま子育て支援交流 事業	避難者支援に関わる支援者 団体対象 ・情報交換と研修会や交流会の開催 ・支援者のスキルアップ研修 会の開催	(A) R4. 4. 1～R5. 3. 31 (B) 子育てランド あ～べほか (C) 1 人	(D) 関係者 避難家庭 (E) 131 人	1, 338
被災児童の交流会 等実施事業	避難者及び帰郷者対象の交 流会や研修会の開催	(A) R4. 4. 1～R5. 3. 31 (B) 子育てランド あ～べほか (C) 2 人	(D) 関係者 避難家庭 (E) 51 人	509
(9) その他会の目的達成に必要な事業				

山形市産後ケア事業業務（ママサポーター）	妊婦または産後 1 年未満の心身不調により養育に支障がある方の自宅にママサポーターが訪問し、家事や育児の援助をして負担軽減を図る。	(A) R4. 4. 1～R5. 3. 31 (B) 各家庭ほか (C) 2 人	(D) 一般市民 (E) 105 回	200
山形市育児等支援サービス事業業務	里帰り出産が困難になった妊婦または産後 1 年未満の方の自宅にママサポーターが訪問し、安心して産前産後期をすごせるよう家事や育児の援助をして負担軽減を図る。	(A) R4. 4. 1～R5. 3. 31 (B) 各家庭ほか (C) 2 人	(D) 一般市民 (E) 16 回	30
妊産婦等の産前産後サポート支援	妊娠期・出産期を含めて母親を対象に産前産後サポートを行う。	(A) R4. 4. 1～R5. 3. 31 (B) 各家庭ほか (C) 2 人	(D) 一般市民 (E) 0 回	
ホームスタート（先輩ママの家庭訪問支援事業）	身近に支援者がいない家庭、外出が難しい家庭や育児不安を抱える家庭に対して、孤立防止や負担軽減を図るために傾聴、協働を行う。	(A) R4. 4. 1～R5. 3. 31 (B) 各家庭ほか (C) 2 人	(D) 一般市民 (E) 訪問回数 50 回	
やまがた他孫（たまご）育て支援事業	活力・意欲あるシニア層の子育て支援活動への参画を促す取り組みを行い、地域の子育て支援活動とシニア層を結びつけることで、子育て支援の裾野を広げ、地域全体で子育てを支える環境づくりを行う。	(A) R4. 6. 6～R5. 3. 17 (B) 県生涯学習センターほか (C) 2 人	(D) 一般市民 (E) 16 人	567
マザーズジョブサポート山形就労支援及び託児業務	女性の就労支援相談業務、利用者を対象とした就職促進等のための企画の実施、託児業務など	(A) R4. 4. 1～R5. 3. 31 (B) ハローワークプラザやまがたほか (C) 3 人	(D) 一般市民 (E) 相談 705 人 企画参加者 140 人 託児 200 人	16, 379
マザーズジョブサポート庄内就労支援及び託児業務	女性の就業のワンストップ窓口を開設し、仕事と家庭の両立に関する相談や保育情報の提供、各種セミナーの開催、無料託児サービスの提供。	(A) R4. 4. 1～R5. 3. 31 (B) 酒田市役所ほか (C) 3 人	(D) 一般市民 (E) 相談 552 人 企画参加者 110 人 託児 95 人	9, 648